

第十六回『謳粹会』の記

日 時 平成11年12月18日 12時00分

会 場 安田信託銀行 『市ヶ谷ハウス』 二階

〔出席者氏名〕 卒業年度（50音別）・敬称略

(昭20)篠田 康 (昭20)渡辺光夫 (昭27)坪井 洋 (昭28)砂川憲二
(昭31)稲葉文男 (昭31)大野金一 (昭31)酒井隆一 (昭31)笹目良雄
(昭31)露木 修 (昭31)蓮 幸治 (昭31)山田晴康 (昭31)横手一郎
(昭36)土金雅晴 (昭37)矢口照雄 (昭41)久松信明 (昭41)長戸 琴
(昭41)安井恵子

12月半ばというのに、珍しく風の無いポカポカ陽気の小春日和の暖かさ、都営地下鉄・新宿線を曙町駅で下車し、外苑東通りに出ると、道の向こう側は自衛隊の市ヶ谷駐屯地で、その先には警視庁第五機動隊の本部がある。小さなダラダラ坂を200mばかり登ると、そこはもう市ヶ谷仲之町三丁目で、目指す建物は一目でそれと分かる白亜の殿堂だが、大きな割には瀟洒な感じのする気品のある建物だった。門灯の名前に「市ヶ谷ハウス」とあるのを確かめて階を上がり玄関に近付くと、中からマネージャーが出て来て「東進会様ですね」と訊かれた。「そうです」と返事をするとお一方お見えでございます。どうぞこちらでお待ち下さい」と奥の部屋へ促された。フカフカの絨毯を踏んで、そのロビーに入ると広さは50畳いやもっとあるだろうか、とにかく天井の高い部屋で立派な調度品の中に、先着の一人がお待ちだった。初めてお会いする方なので、名刺を出して挨拶をすると、「横浜から来た笹目です」と名刺を頂いた。「露木君から誘いがあって、初めて出席するんです」とのことでした。そう言えば今日の出席者の少ないのを心配して「僕も2～3人連れて行きます」という昨日の露木さんからの電話連絡だった。

土浦の近辺で笹目さんというと、私は高浜を思い出した。「ご出身は石岡ですかと訊くと「そうです」という答えが返って来た。私は古い50年も前のことを思い出した。お茶を習っている中に、私より幾つか年上の女性で、高浜から通っていた笹目さんという方が居り、夏のある日、先生と6～7人でそのお宅を訪ねたことがある。それはとてつもなく大きな広い家で、和船

を漕いで恋瀬川から霞ヶ浦に出て泳ぎ、その後大きな西瓜を幾つも切ってご馳走になったことを今でも思い出す。

時計は11時50分を指している。砂川さんと山田さんと安井さんが見えた。その時マネジャーが出て来て、「お部屋の支度が整いましたのでお二階の方へどうぞ」と言われて階段を上った。会場は、一階のロビーからは想像も付かない、檜の高い香りの和室で、風も無い小春日和の暖かな優しい太陽がいっぱいに差し込む明るい部屋であり。都会の喧騒から抜け出した贅沢な佇まいだ。

時をおって追々出席者が増える。12月4日、山形新幹線は新庄まで開通した。安井さんは早速初乗りの旅をして、そのお土産にと最上川酒造の原酒「とろり」を持参して下さった。飲み放題のお席なので、お酒を持ち込めば、その分ハウスの量が少なくて済むので自由だろうと考えていたが、そうは行かなかった。係の女性は、「銘柄や量の大小に拘らず、一本につき1,500円申し受けます」ということでした。そう言っている所へ露木さんが静岡（焼津）の銘酒磯自慢を携えてお出でになった。顧問の渡辺さんの顔も見えて、「もう一人は矢口さんですから、矢口さんは他に用事があるので、間に合うかどうか、とにかく伺いますということなので、もう始めましょうか」という長戸さんのお声掛けで、乾杯用のビールの用意が奥に通された。

会長が立って「本年も残り少なくなり、暮れのお忙しい中をようこそお出で下さいました。本日の会を開くに当たっては、東進会副会長露木さんの絶大なるお骨折りを頂きまして、このような立派な所で会を開くことが出来まして、衷心より感謝申し上げます次第でございます。『謳粹会』も二度目の正月を迎える訳でございますが、微弱な私が、今日まで大過なく勤められたのも、これも偏に会員皆様方の大きなご協力の賜と常日頃感謝致しております。会に付いては未熟者ゆえ至らぬ点多々あり、ご不満な点がございましたら、遠慮なく忌憚の無いご意見を承り、明るく楽しい会として皆様に愛される様に努力致します。今後とも皆様方のご協力を頂きまして『謳粹会』が益々発展する様、そして『東進会』繁栄の一助ともなればと念じて居りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます」と挨拶しました。

続いて乾杯の音頭は、『東進会』長老の顧問、渡辺さんのご発声で、参会者一同グラスを高く掲げ、本日のお互いの無事を慶び、宴に入りました。

その後、大野理事長のお声がかかりで、「今回始めて出席の方もるので、自己紹介をしましょう」ということで、口切りは今日初めてご出席の笹目さ

ん、稲葉さんから始まり、次には昭和36年卒の土金さん立って「僕はお酒が全く飲めないのです、こういう席は苦手です余り出ませんが、今日は東進会の忘年会というので出席しました」と大変嬉しいことをいって下さいました。

四番目の長戸さんの後には、本日の立て役者露木さんが立ちました。更に渡辺さん、そして山田さんと続いたが、自己紹介の声も皆様の懐旧談に、或いは時事論争の声に掻き消され、後は途切れてしまいました。

宴会も終盤に近付いて、もう料理も残り少なくなった頃、約束通り律義な矢口さんが、にこやかな顔を見せてくれた。でも、飲み放題コースなので飲み物だけは十分あるが、矢口さんは「夕方から、もう一つの忘年会がある」といって遠慮をされているようだった。

こうして飲む程に酔う程に楽しくやっておりましたが、飲んでる時の時間の経つのは早いもので、予定時間の2時半は瞬く間に過ぎ、会はお開きになって市ヶ谷ハウスに別れを告げたが、二次会を何処でしようかということになり、橋を渡った向こうは荒木町だが、この時間ではと、とにかく地下鉄で新宿に出た。そして、小田急ビル13階にあるニュートーキョー経営の**さがみ**に10人程が腰を下ろした。もう食べる物は入らないので軽い摘みでただ飲むだけだった。この後、数人で『玉淀』に行き、仕上げとばかりに又飲んだ。今年の会の飲み納めに相応しく、良く飲んだものだと感心した。来年もよい年でありますようにと念じつつ、家路に着いたのは9時過ぎていた。

◎本日のお酒

原酒「とろり」

最上川酒造(株) 山形県新庄市十日町一四九五 ☎ 0233(22)5125

アルコール分19.0度以上20.0度未満。

葉にいわく

寒造りの本醸造の原酒で、原酒とは蔵元でうまれたばかりの濃いお酒です。

特に此の原酒は、蔵元で高品質の酒を確保して商品化されたものです。濃いお酒ですので、オンザロックで召し上がりますと、氷が溶けて適度な温度になり、原酒ならではの味わいです。

又、ヒヤでお召し上がりの時は、飲み過ぎません様に、お燗されず時にはちよっとお水を加えて下さい。

そのままお燗をされる時には極温くお願いします。

特撰「磯自慢」

磯自慢酒造(株)

代表者久保 善央

社 氏 竹原 武

静岡県焼津市鰯ヶ島三〇七 ☎ 054(628)2204

使用好適米…麴・掛 山田錦（播州）100%

精米歩合…麴 55%・掛 60%

日本酒度…+5～+7

酸 度… 1.0～1.1

アルコール分…15度以上・16度未満

粕 歩 合… 42%～48%

使用酵母…NEW-5

仕 込 水…アルプス水系大井川伏流水

特別本醸造「磯自慢」は、酒造好適米、山田錦を区高度に精白し、南アルプス間ノ岳を源泉とする大井川伏流水を用いて、冷蔵仕込み室で低温でゆっくりと発酵させます。長年蓄積した独自の麴作りと優良な酵母（自家培養）を利用、丹精込めて手作りしたお酒は、奥深い丸い味わいを持ち、神秘的な吟醸香を漂わせます。吟醸酒タイプです冷やしてお試し下さい。

市ヶ谷で としを送りし 仲之町
柔らかき 陽だまりに酌む 年忘れ
冬至すぎ 山茶花白く はるを待つ

座 席 図

久	渡	土	坪	横	笹	蓮	稻	
松	辺	金	井	手	目		葉	
信	光	雅		一	良	幸	文	
明	夫	晴	洋	郎	雄	治	男	
○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○
酒	砂	篠	大	長	露	山	安	矢
井	川	田	野	戸	木	田	井	口
隆	憲		金			晴	恵	照
一	二	康	一	琴	修	康	子	雄

（篠田記）

【次回予定】 1月18日（火） 新年を祝って『玉淀』で開きます。